

開催挨拶の要旨

(内島局次長)

会場、そしてオンラインでも多数の方のご参加をいただき厚く御礼申し上げます。本日は基調講演の後、コーディネーター・パネラー計5人の方に御登壇いただいてディスカッションを行う。テーマは「農村RMO」であるが、人口に膾炙した言葉とは現時点では必ずしも言えないだろう。私自身も現在次長としては担務の一部であるが、地域振興の仕事を自身の業務として専門に担当したことがなく、今日はみなさんのお話をしっかりと聞いて、そのメソッド・パッションを共有し、理解と取組を広げる契機にしたいと思っている。

今、当省では、食料・農業・農村基本法の本格的な検証作業を20数年ぶりに行っている。この基本法では、食料の安定供給の確保と農業農村が持つ多面的な機能の発揮のために、それを支えるものとして、農業の持続的な発展、農村の振興を図るという基本理念の構成になっている。すなわち農村の振興が一番基盤になるものだが、地域振興をどこの省庁が担当するかというのが省庁再編等のプロセスの中でちょっとした議論になった。そうこうしているうちに、農村をめぐる事態が想像以上に進んでしまったということもあったと思うが、ここ数年で、農林水産省としても、他省庁ともしっかり連携し、農村の振興に腰を据えて取り組んでいくということをかかなり明確に打ち出すようになってきている。そのひとつの核が地域マネジメント組織としての農村RMOだろうと認識している。

農村に人が住まうことによって維持できる機能というものはあるはずで、それらはしっかりと守っていかなければいけないし、人が住み続けるというのは人の生活そのものであるもので、当然ひとつの省庁だけで完結するような単純な問題ではない。したがって政策の重畳は避けつつも関係各省庁が相携えて取り組んでいく問題であると思う。

今日は淑溜先生からまず基調講演をしていただいた上で、先進地区の3人の方にご登壇いただき、金岡先生に、少し前までここ北陸の富山大学で地域づくりの研究と実践をされてきたということでファシリテートをしていただいて、ディスカッションを進めていきたいと思う。ご聴講のみなさまには、そのメソッドとパッションをそれぞれの地元を持ち帰っていただいて、まず地域で地域のことを話し合うというところからぜひ始めていただきたいと思う。本日は皆さん、よろしく願います。